

「大学院教育の実質化の検証を踏まえた更なる改善について」 意見募集に対する提案意見
このページと同じものは <http://dtcn-wisdom.jp/J-Edition%202/J0001-daigaku-no-kaikau.pdf> で見れます。

作成日 2010 年 12 月 1 日

テーマ名 : 「知識から知恵を創り出す方法」の大学院、大学において、教育をすること

提案者名 江崎通彦 (77 才) 職業 : 定年退職者 E-MAIL : esaki@dtcn-wisdom.jp

履歴 : <http://dtcn-wisdom.jp/keireki.pdf>

住所 〒502-0053 岐阜市長良宮路町 1-3

TEL : 090-3579-0406 または 058-231-9287 FAX : 058-294-5191

この提案と同じものは

上位テーマ名の名称 : 大学院教育の実質化の検証を踏まえた更なる改善

(添付資料となる、資料 a 資料 b 資料 c 資料 e は本日、クロネコ多急便問い合わせ番号 3130-1198-3594 で送りました。

提案内容 (意見)

1. 提案内容 :

(1) 認識事項

- ① 従来、社会 (企業、行政など) は知恵を創り出すことのできる人を要求しています。しかし、知識がたくさんあっても使い物にならない、もしくはその知識をどう有効に使えばよいか解らない人が多すぎました。
- ② 本提案者は、「知識を知恵にかえる方法」 (= 知識から知恵を創り出す方法) を考案しました。歴史は下記の URL で見れます。 <http://dtcn-wisdom.jp/00001-history-of-Method.pdf>
その内容は、下記の、a、b、e につき本提案の添付資料として、別に、本日宅急便にて、お送りします。
 - a. 「知識から知恵を創り出す方法」 (補足解説は <http://dtcn-wisdom.jp/00001-R3.pdf> よりダウンロードできます)
 - b. それを解りやすく、詳細まで解説した DVD とそのテキスト (提案者の大学での最終講義 (H15-2-12) の 2 画面) ビデオ (なおテキストは、<http://dtcn-wisdom.jp/J-Edition%202/J0001-daigaku-saishukougi.pdf> からダウンロードできます : 近々色つきのものに差し替える予定です)
 - c. 参考までに、①の英語版 (要点は <http://dtcn-wisdom.jp/00001-R3E1.pdf> でダウンロードできます)
 - d. 上記に加えて、従来、分析をすることは、先ずやみくもに、バラバラにすることのみとして理解されていたのを、「分析をすることは、何をしさえすれば、分析をしたことになるか」を、明解にした論文が、日本語 <http://dtcn-wisdom.jp/00001-J-analysis.pdf> で見れます。
同様にその英語版も <http://dtcn-wisdom.jp/00001-E-analysis.pdf> で見れる様にしてありますので、著作権だけ守っていただければ、無料でダウンロードして使っていただけるようにしてあります。
 - e. 更に、提案の応用範囲を広げる方法としての「WBS の再定義と使い方」の本 <http://dtcn-wisdom.jp/00001-PMSE.pdf> を添付資料として提出します。

(2) 上記の(1)に、基づき、次の提案をします。

- ① 「知識を知恵にかえる方法」を大学、大学院で教える。場合によっては高等学校でも教える。
- ② また、希望する企業、行政機関にも教える。

- ③ 多くの大学、企業、行政機関に、この方法を教えるために、添付資料 a、b の DVD、必要に応じて e の資料を購入してもらい、後に必要な資料は、ウェブ上からダウンロードしてもらい、無料で提供する。
- ④ 「知識を知恵にかえる方法」の知識は、添付資料 a、b の DVD、必要に応じて e の資料で自習すれば、それで「知識を知恵にかえる方法」は身に付くようにしてあります。
- ⑤ その他のこの方法を、DVD とそのテキストに紹介してある「新プロジェクト管理の方法 (DTCN/DTC : デザインツーカーカスタマーニーズ/デザインツーカーコスト) の考え方とその手順までへの展開する場合は、はウェブ上から、その日本語版、英語版を無料でダウンロードできるように公開してありますので、それを使っただけでよいようにしてあります。

日本語版は、<http://dtn-wisdom.jp/J-pdf%20entrance.html>

英語版は <http://dtn-wisdom.jp/E-pdf%20entrance.html> です ((英文版は、文部省の科研費の助成により出版できたものです)

- ⑥ ただ、2008 年に出版した「知識を知恵にかえる方法」の本は、出版社の費用で出版していますので、購入をしていただく必要があります。

そのカタログと概要の説明は、日本語版 <http://dtn-wisdom.jp/00001-R3.pdf> (¥2,100)

英語版 <http://dtn-wisdom.jp/00001-R3E1.pdf> (¥3,150) で見れるようにしてあります

- (3) 添付資料 b のビデオもいずれ、ウェブ上からダウンロードまたは見れるようにしたいと思います。(テキスト資料は、2003 年版を今でも、見れるようにしてあります。

<http://dtn-wisdom.jp/J-Edition%202/J0001-daigaku-saishukougi.pdf>

2. 提案のねらい (期待される効果)

- (1) 我が国を「知恵を創り出す国」として進展させ、科学 (知識の探求能力の向上、) 技術 (知識から知恵を創り出す創造性の向上) に強い国にして、世界に貢献できる国にする。
- (2) そのための手段としての日本の大学、大学院を実質化 (実力とその中身) のある大学、大学院とする。できれば高等学校のレベルまでの実質化をするための、「知識を知恵にかえる方法」をツール・手段として、進める。
- (3) 幼児からの創造力のある人物を育てるため、「知識を知恵にかえる方法による「創造性教育の方法」を展開する。この方法は <http://dtn-wisdom.jp/JAIST-06.pdf> よりダウンロードできます。この論文の講義用のテキスト (案) は、<http://dtn-wisdom.jp/J-Theme-How%20to%20proceed%20creative%20Education.pdf> よりダウンロードできます。
- (4) 行政コストのコストダウンを民間で使っているコストダウンの方法に使う (この提言は、2010-11-9 に、内閣府、行政刷新事務局の田中秀明参事官に提出しました。その内容は、<http://dtn-wisdom.jp/00001-2010-11-9naikakufu.pdf> で見れます)
- (5) この他この方法を更にシステムティックかつ顧客と供給者の間にできる溝 (所謂「営業のブラックボックスの解消」) に使えるようにするためには、資料 e の「WBS の再定義と使い方」の本が、非常に参考になります。
- (6) 今、大学が必要とされているファカルティ・デプロイメントの一方法として、使えるようになります。どのようにして使えるかは、考案者が大学生を指導してできた下記の論文が使えます。下記のダウンロードは、次の URL からできます。 <http://dtn-wisdom.jp/J-education/J-jitugaku-PR-ronnbun.pdf>

3. 提案を実現するために必要な条件

- (1) この提案を、文科省、経産省、内閣府で、積極的な姿勢（ポジティブ・メンタルアチチュード）を持って検討していただくこと。
- (2) この提案の最少の実行予算は、添付資料 a の {知識を知恵にかえる方法（＝知識から知恵を創り出す方法）の本の購入費（¥2,100）<http://dtn-wisdom.jp/00001-R3.pdf>、b の DVD の購入費（¥?さほど高くない価格）だけでできます。
- (3) 英文版の「Method for creating wisdom from knowledge」の <http://dtn-wisdom.jp/00001-PMSE.pdf> 本も同様です。（¥3,150）
- (4) 上記の資料以外の資料は、提案者が、ウェブ上から日本国民のために無料でダウンロードできるようにしてあるのでタダです。 またその改訂版も、命のある限り、見れる様に更新します。
- (5) 提案者は、すでに 77 才であり、もうじき他界しますので、「知識から恵を創り出す方法」を教えることができ、博士号を持っている人として、河合龍憲氏（28 才）（大学に就職先が見つからなかったため、現在高校の先生をやっており、高校教員免許も持っている）を推薦します。この人物を是非、「知識から知恵を創り出す方法」を教えることのできる大学教員として使っていただくと、この方法を大学や大学院として引き継ぐことができるようになると考えています。河合龍憲氏の履歴書は、<http://dtn-wisdom.jp/keireki-kawai.pdf> で見れます。

4. どんなことからこの提案を思いつきましたか

- (1) 従来、「知識から知恵を創り出す方法」を考案したときから、思い描いていたことから。
- (2) 経産省が推薦している社会人基礎力～社会でいきいきと活躍する若者の育成を目指して～の「社会人基礎力」とは、「前に踏み出す力」、「考え抜く力」、「チームで働く力」の 3 つの能力（12 の能力要素）から構成されており、「職場や地域社会で多様な人々と仕事をしていくために必要な基礎的な力」をつける方法として「知識から知恵を創り出す方法」は強力な武器、方法の一つとしてとして、また、企業や若者を取り巻く環境変化により、「基礎学力」「専門知識」に加え、それらをうまく活用していくための「社会人基礎力」を意識的に育成する方法として使えると考えたことから。（<http://www.meti.go.jp/policy/kisoryoku/index.htm>）をみたことから。
- (3) 以上を、具体化していけば、生涯教育の創造性の向上に大きく貢献できると前から考えて来たことから
以上